

スズキ (スズキ科)



学名：*Lateolabrax japonicus*

別名：出世魚のひとつで、30 cm までをセイゴ、60 cm までをフッコ、それ以上をスズキと呼ぶことが多い。釣人からはシーバスとも称される。

大きさ：全長 100 cm

特徴：体は長く側扁し、口が大きく下あごは上あごより突き出る。幼魚の頃は体に小さい黒色斑点が散在するが、成長にともない消失する。県内でも採捕されたことのある中国大陸沿岸を原産地とするタイリクスズキ (*Lateolabrax sp.*) は吻が短く、体表の黒色斑点の多くが鱗より大きいことから識別できる。

冬、海で産卵や越冬を行い、春から秋にかけては内湾や河川内ですごす。餌の豊富なアマモ場、汽水域、河口域などで仔稚魚期を送る。

国内の分布：ほぼ日本全土

県内の分布：利根川水系、那珂川水系、久慈川水系など。霞ヶ浦水系でもみられる。

県内での生態：汽水湖である涸沼はスズキ

稚魚の重要な成育場となっており、春になると多くの稚魚が海から来遊する。アミ類を多く食べ、全長 20 cm 前後に成長した若魚は秋に海へと向かうことが知られる。

霞ヶ浦・北浦においても、常陸川水門が閉鎖されるまでは、主に 2~3 月頃、上げ潮にのり多くの稚魚が海から湖内へ来遊したが、閉鎖後は妨げられている。

備考：白身で風味がよく、刺身（洗い）や焼き物などで賞味される。また、河口域や海域での釣り対象種として人気がある。

主な文献：

山崎幸夫（1997）汽水湖涸沼に放流したスズキ人工種苗の移動・分散と成長．茨城水試研究報告, 35: 1-7.

高瀬英臣（1982）茨城県海域におけるスズキ (*Lateolabrax japonicus*) の資源生態的研究 涸沼周辺に來遊するスズキ未成魚の來遊状況と成長過程．茨城水試研究報告, 24: 105-108.

加瀬林成夫（1957）霞ヶ浦・北浦におけるウナギ・スズキ及びボラの遡河について．茨城内水試調査研究報告, 2:20-25.